

JCHO湯布院病院 地域協議会議事録

開催日時 平成31年2月14日（木） 18時30分より19時30分

開催会場 JCHO湯布院病院 2階 第1・2会議室

出席者 外部委員 8名

大分郡市医師会副会長 岩男裕二郎、大分県中部保健所長 前田泰久
由布市健康増進課長 馬見塚美由紀、由布市福祉事務所長 栗嶋忠英
日野病院院長 日野修一郎、吉村歯科名誉院長 吉村幸治、
自治区会長 後藤久生、患者代表 佐藤晶

院内委員 5名

院長 根橋良雄、副院長 井上龍誠、事務部長 堀川利美
看護部長 永野美智代、地域連携室長 佐藤 史

配布資料 議事次第、概況書、平成30年度活動実績および計画

冒頭、病院より、地域協議会について委員名簿、議事録（匿名化）をホームページで掲載する旨の説明がなされ、了承を得た。

1.（病院）

普段より、当院活動にご協力いただきありがとうございます。現在の活動状況を説明しますが、正直厳しい状況です。いろいろな課題があるが、今できる活動を積極的に進めて言って皆様方のお役に立ちたい。医科歯科介護福祉を協同しながら、活動を前向きに続けてやっていきます。温泉プールについては2月6日に再開しました。流水プールが使えないとか制限はありますが、これから湯布院病院が目指しているリハビリテーションをさらに活発に活動を続けてお役に立ちたい。今日はよろしくお願ひします。

2. 委員紹介

病院より委員の紹介が行われた。

3. 議題

- ・湯布院病院の現況について

（病院）

資料に基づき説明があった。（主な説明事項）

- ①4月より、西4病棟を休棟した。2月に温泉プールを再開した。
- ②職員数が平成29年4月が382名であったが、平成31年2月が331名となり、51名の減となっている。

・平成30年度の活動実績および計画
(病院)

資料に基づき説明があった。(主な説明事項)

- ①平成30年9月10日から10月19日まで、3回に渡り大分大学医学部5年次生に「地域医療学実習」を行った。
- ②12月に釜山ボン病院より9名、病院見学に来た。
- ③地域ケア会議専門職派遣 計63回派遣予定。
- ④患者・地域住民向け公開講座として、市民公開講座を2ヶ月に1度、開催している。

(E 委員)

スパマラソンにお医者さん1人、看護師さん2人を出していただき有難うございました。

・温泉プール再開について
(病院)

プールに関して、さまざまなご意見を多数、出していただきました。市民の方からもそういう活動がありました。当院として再開できる準備をして、メンテナンスを行い、2月6日に温泉プールを再開しました。再開にあたり、JCHO組織のなかの九州地区理事である熊本総合病院長をはじめ、本部を含めてバックアップして頂いた。温泉プールの再開式を行った後、すぐに利用して頂いている方からは続けてやりたいと意見を頂いた。現在、整形外科の術後、整形外科の疾患、脳血管疾患の入院・外来患者を対象に行っている。温泉プールと共に、当院が持っているリハビリの先進ロボットを今まで以上に活用して皆さん方に貢献したい。

休止にする時点で様々なご意見を頂いたことが、再開にこぎつけた大きな力であるとおもいます。経営は非常に苦しいが、しっかり活動していきます。

温泉プールについての報告とします。

(病院)

市民公開講座の3月14日分について病院側よりお願いします。

(病院)

2ヶ月に1度のパターンで行い、来月の3月14日には認知症を行います。5月までのスケジュールをたてています。5月は糖尿病をさせていただきます。市民の皆様に来ていただければと思います。よろしくお願いします。

4. 委員からのご意見

(E 委員)

長期入院の場合は緩和ケアがないと困るのでは？

(病院)

数ヶ月に渡る長期は難しいが、いろいろな形で、期間が決められている地域包括病棟を使って患者さんを診ていきます。病棟としての名称がなくても、もし可能であればご相談いただければと思います。

(F 委員)

プール再開はわれわれとして大歓迎です。休止の時、委員は存続を希望した。再開に向けてのネックは、地震に対しての補強が問題あるのではないか。耐震補強はされたのかと言う事と、入院患者さんのリハビリの開放ですが、一般市民への開放はどのように考えられますか？

その2点をお聞きしたい。

(病院)

プールは2つありまして、小さい流水プールはすぐ使うことは難しいので、今回は大きなプールだけ使います。体裁的なところでは、もっと手を入れてもいいんだと言う部分もあるが、再開する前に業者に確認させて、問題なく使えると言う事になったので、今の段階では問題ありません。流水プールは活用するには手を入れなければいけないのでまだ使わない。対象は、入院患者と外来患者のみで、理由として、さまざまな理由で再開にこぎつけた。セラピストの数の関係もあるし、そこをしっかりとそこをやりたい。おっしゃるように住民の方への貢献や期待もありますが、今月再開したばかりなので、いつからというのは未定ですが、そういうご意見があることは重々承知なので、今後に向けて考えます。

(I 委員)

由布市で国民保養温泉地の再認定が行われたので、丁度いい時期で、温泉利用で健康にスポットをあててもよいのでは？競争する訳ではないが、竹田市あたりががんばっています。入院患者を対象に絞りながら、温泉プールのエビデンスに対する取り組みもお願いしたい。将来的に保険の適用も視野に入ってくるのでは。

町民が再開したことを知らない方が多いので、で大分合同さんに、ニュースを流して欲しい。

(病院)

大分合同さんには、流してはいますが、報道されるかどうかはわかりません。

(A 委員)

うちの患者さんが外来に来られた時に、プールが再開しているのもう行きましたといっていた人がいるんです。間違いでしょうかね。

(病院)

6日から再開してるからでしょうか。実際利用された方かなのかどうかはわかりません。

(A 委員)

この方々は以前のおりに行くことができる。と言われてました。なんか違うみたいですよとは言っておきましたが、いえ行けるんですよとおっしゃっていました。

(病院)

再開式の時に見学に来られていた方もいましたので。その中に居られたのかも。また再開したばかりで状況を掴んでいないところもありますので、十分に、啓蒙活動していきます。

(A 委員)

それと、私うれしかったです。検視のことで表彰されたということで。以前 検案していただいて。非常にありがたかった。これからもよろしくお願いします。

(E 委員)

整形外科にいつもお世話になっており感謝しています。心配な数字もあるけど是非頑張ってください。

(A 委員)

竹田市と一緒にする訳ではないが記事を見ると15年前に由布市が実施して記事に載っていたことをやっていることですね。竹田市が目をつけて、健康保険増進市の指定を受けて、そこを利用することでマイレージの点数になったり、よそから来た人も割引があったり行政全体でやってらした。湯布院もそこをやっていただければ。

(病院)

他に何かございませんか。こうやったら湯布院病院はよくなるんだけどとか、これはちょっと無駄じゃないかとかなかったでしょうか。とかありませんか。

(H 委員)

お医者さんがもっと増えたら。各種専門的なものが増えれば、いい。以前は駐車場に車が入らないぐらいあった。湯布院病院が由布院の中核ですから。そこをちゃんとしてもらわないと住民は安心して行かれんのが現状ですかね。

(病院)

大分県下の各病院が非常に厳しい状況にあり、町内の先生方も、非常にご苦労されている。何としても医師の確保。私どもも大学等に働きかけています。住民の方々の声を力に貸していただきたいと思います。その際はよろしく申し上げます。

(E 委員)

神経科の先生が来られていますか？

(病院)

精神科の専門医師が週に1、水曜日、午前中外来をやられている。よろしく申し上げます。

(A 委員)

FM 大分で7時からの番組でやっていますが、民間の先生方がお話しをよくやっていますが、そういうところで湯布院病院の特徴やリハビリを広報するのも一つの方法では？ スポンサー料がいるが、皮膚科や耳鼻科の話の聞いているとおもしろいので、回復リハのノウハウとかお話しをするとよいのでは。

(E 委員)

県の医師会を通じてテレビの番組もやられて（放映されて）いる。

(病院)

由布院の3つの病院でやってもよいのでは。できたらすごくよいのでは。

(病院)

行政のほうから何かありますか。

(C 委員)

湯布院病院さんに、日頃から介護予防教室をやっていただき、本当にありがとうございます。プール再開された時にホームページを見たけど、市民の方からは問合せはないですか。

(病院)

まだそこまで、個人の方からの問合せはないですが、大学病院さんから次の日には、そういった患者さんを紹介させていただきたいと連絡がありました。

(D 委員)

地域貢献として湯布院病院が頑張っている姿を、地域の方はみえています。、温泉プールを一般の方が早く利用できるような体制になるといいなと思いました。

(F 委員)

気になったのは、マイナスの補填は JCHO グループですか？

(病院)

基本的に JCHO の組織が法律で制定された時点で、国からの補助金はでない。57 病院全体で収支が赤字はありえないので他の病院からの補填になるので一刻も早く黒字にして、こういう問題が起きないようにしたい。来年度も同じようにはできない。セラピストを最大限活用して全体的にしっかりとした仕事をしていく。

(F 委員)

医師の派遣もお願いできるのか。

(病院)

かなりの職員数がある大規模病院もあるが、現実問題としてどこの病院も、医師が充足して動いている所はどこもない。うちより厳しい病院もある。

うちの場合には、研修医に来て頂いたりしている。九州地区からは、外来や宿直に来ていただいている。常勤医師も確保していけるよう動いています。

(F 委員)

全国的に名を馳せた時代もあったが、リハビリだけでは難しいと聞いて寂しいという話も聞きましたが、今回、プールが再開して嬉しく思います。保養ホームも検討課題ですね。

(I 委員)

保養ホームを、公的施設がよくやる指定管理制度で有効活用するのは？

(病院)

極めて難しい。一定のバックグラウンドがないのは難しい。

(病院)

それでは、委員の皆様方からいただいた意見については、少しでも病院で活かせるようにご参考にさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

〈 了 〉